

分野	専門分野	担当者（職種）	水口英和（専任教員）
授業科目	精神看護学概論	実務経験	有（医療機関に10年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	人間の心の構造と働き、精神看護の目的・対象・機能・役割を理解する。また看護の歴史の変遷、関係法規、倫理と人権について学習し、精神看護実践のために必要な基礎的知識を学ぶ。		
授業の概要	講義を通して、精神看護学の基礎的知識を学び、社会の中の精神障害者に対する理解を深める。人間の心という精神面の理解を深め、人間関係の重要性や関わり方、考え方を理解していく。その中で、精神障害者の方々の“生きにくさ”について理解し、今後の精神看護学実践につなげていく。講義を通し、これまでイメージしていた精神科病院との比較をしながら現状を知っていく。		
	1回 精神看護学で学ぶこと【講義】 1) 精神看護学とはなにか 2) 精神障害をもつ人の病と体験 3) 「心のケア」と日本社会 4) 精神看護の課題		
	2回 精神保健の考え方【講義】 1) 精神の健康とは何か 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響		
	3回 精神保健の考え方【講義】 3) 心的外傷と回復 4) 精神障害というとらえ方		
	4回 人間の心のはたらきと人格の形成【講義】 1) 心のはたらき①		
	5回 人間の心のはたらきと人格の形成【講義】 1) 心のはたらき②		
	6回 人間の心のはたらきとパーソナリティ【講義】 1) 心のしくみと人格の発達①		
	7回 人間の心のはたらきとパーソナリティ【講義】 1) 心のしくみと人格の発達②		
	8回 関係のなかの人間【講義】 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団		
	9回 ケアの人間関係【講義】 1) ケア的前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法		
	10回 社会のなかの精神障害【講義】 1) 精神保健福祉の歴史		
	11回 社会のなかの精神障害【講義】 1) 精神保健福祉の法制度①		
	12回 社会のなかの精神障害【講義】 1) 精神保健福祉の法制度②		
	13回 精神看護における倫理【講義・グループワーク】		
	14回 ケアの人間関係【講義】		
	15回 筆記試験 まとめ		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院		
参考図書			
評価方法	筆記試験 ※授業科目の授業時間数2/3以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の注意	・予習をして授業に臨みましょう。授業後には復習をしましょう。		

分野	専門分野	担当者（職種）	山内宏治・渡部亜矢子・ 山内洋治・永田雅士・ 三輪田高房（医師）
授業科目	精神看護援助論Ⅰ （精神障害の理解）	実務経験	有（医療機関に 年以上勤務）
		単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
対象学年・学期	2 学年・前期	DP との関連	DP1～5
授業の目的	精神障害（疾患）の分類およびそれらの成因、臨床症状、治療方法等について系統的に学ぶ。		
授業の概要	主にテキストを用いた講義を通じて、精神看護にいかすために精神障害（疾患）の分類およびそれらの成因、臨床症状、治療方法等について系統的に学習する。「精神障害（疾患）」をもつ人々の様々な背景の理解を促し、精神的回復を援助できる基礎的知識を修得する。		
授業計画（回・内容・授業形態）	<p>1 回 1. 精神疾患のあらわれ方【講義】</p> <p>1) 精神を病むことと生きること</p> <p>2) 精神症状論と状態像：理解への手がかり</p> <p>2 回 1. 精神疾患のあらわれ方【講義】</p> <p>1) 精神障害の診断と分類：診断と疾病分類、統合失調症</p> <p>3 回 1. 精神疾患のあらわれ方【講義】</p> <p>1) 精神障害の診断と分類：気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（不安障害～適応障害まで）</p> <p>4 回 1. 精神疾患のあらわれ方【講義】</p> <p>1) 精神障害の診断と分類：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（解離性障害～その他の神経障害まで）、精神作用物質使用による障害及び行動の障害、各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調（知的能力障害～発達障害まで）</p> <p>5 回 1. 精神疾患のあらわれ方【講義】</p> <p>1) 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調（摂食障害～認知症まで）、その他</p> <p>6 回 1. 精神科での治療【講義】</p> <p>1) 精神科における治療、精神療法</p> <p>7 回 1. 精神科での治療【講義】</p> <p>1) 薬物療法、電気けいれん療法その他、環境療法・社会療法</p> <p>8 回 筆記試験 まとめ</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院		
参考図書			
評価方法	筆記試験 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	・予習をして授業に臨みましょう。授業後には復習をしましょう。		

分野	専門分野	担当者（職種）	井上賢一 （精神科認定看護師）
授業科目	精神看護援助論Ⅱ （精神障害者の看護）	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	<p>精神障害を持つ対象に応じた看護が実践できるための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>1) 対象者が社会復帰を目指して自分らしく生きていくために果たす看護師の役割・支援・協力体制等について理解する。</p> <p>2) 精神障害を持つ患者・家族と看護師が援助的関係を築きながら行う精神看護について理解する。</p> <p>3) 精神障害を持つ患者の身体ケア・身体合併症について理解する。</p> <p>4) 精神科におけるリスクマネジメントの考え方と方法について理解する。</p>		
授業の概要	<p>講義を通して、テキストの内容と臨床での看護経験を踏まえながら、グループワーク等も行い過去に出題された国家試験問題を解きながら精神科看護について理解を深める。</p>		
授業計画（回・内容・授業形態）	<p>第1回 オリエンテーション 回復を支援する 【講義】</p> <p>第2回 回復を支援する 【講義】 回復の意味 リカバリーのビジョン</p> <p>第3回 回復を支援する 【講義】 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 リカバリーを促す環境</p> <p>第4回 回復を支援する 【講義】 リカバリーを促す方法としてのグループ さまざまな回復のためのプログラム リカバリーのプロセス</p> <p>第5回 入院治療の意味 【講義】 精神科を受診するということ 治療の器としての病院・病棟</p> <p>第6回 入院治療の意味 【講義】 入院中の観察とアセスメント</p> <p>第7回 入院治療の意味 【講義】 ケアの方向性を考える</p> <p>第8回 入院治療の意味 【講義】 退院に向けての支援とその実際</p> <p>第9回 身体をケアする 【講義】 精神科における身体のケア</p> <p>第10回 身体をケアする 【講義】 精神科における身体を通じた看護ケアの実際</p> <p>第11回 身体をケアする 【講義】 精神科の治療に伴う身体のケア</p> <p>第12回 身体をケアする 【講義】 身体合併症のアセスメントとケア 精神科における終末期ケア</p> <p>第13回 安全を守る 【講義】 リスクマネジメントの考え方と方法</p> <p>第14回 安全を守る 【講義】 緊急事態に対処する 緊急事態とスタッフの支援</p> <p>第15回 筆記試験</p>		
使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ	精神看護の基礎 精神看護の展開	精神看護学① 精神看護学② 医学書院 医学書院
参考図書			

評価方法	筆記試験 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。
履修上の注意	・ 予習をして授業に臨みましょう。授業後には復習をしましょう。

分野	専門分野	担当者（職種）	水口英和（専任教員）
授業科目	精神看護援助論演習	実務経験	有（医療機関に10年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神看護に必要な基礎的知識、技術について演習を通し修得する。</li> <li>・これまでに学んだ精神看護学の基礎的知識を統合して、提示された事例に対し、情報の整理、分析・解釈、問題点の抽出、具体策の立案の方法について学ぶ</li> </ul>		
授業の概要	<p>精神（精神科含む）看護に必要なコミュニケーションのスキルや精神療法の実際を体験し、看護実践に活かすことができるように学んでいく。</p> <p>看護過程演習としてグループワークを行い、グループ間のアセスメント結果を比較しながら、アセスメントする視点の違いなどに気づき、追加・修正を行っていく。また精神的安寧を図るための援助や精神科特有の看護の視点が養われるように計画の具体策を検討する。</p>		
授業計画（回・内容・授業形態）	<p>1回 1. オリエンテーション【講義・グループワーク】教員 2. ケアの人間関係 1) ケアの前提・原則・方法</p> <p>2、3回 1. 関係をアセスメントする【講義・グループワーク】教員 1) プロセスレコードの活用</p> <p>4、5回 1. 精神科におけるコミュニケーション【講義・演習】看護師 1) 暴力 1) 包括的暴力防止プログラム</p> <p>6回 1. 回復のためのプログラム【講義・演習】看護師</p> <p>7、8回 1. 回復のためのプログラム【講義・演習】看護師 1) SST（ソーシャルスキルトレーニング）ロールプレイ</p> <p>9回 1. 精神看護過程のオリエンテーション【講義・演習】教員 事例) 統合失調症 気分障害 ※2事例のうち、どれかの一事例を各人が選択して演習に取り組む。 1) 統合失調症の病態理解 2) 気分障害の病態理解</p> <p>10～13回 1. 看護過程の展開【グループワーク】【講義・演習】教員 1) アセスメント・関連図・看護診断・計画</p> <p>14、15回 1. グループ発表【講義・演習】教員 1) 関連図・計画を用いてグループごとに発表する</p>		
使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院		
参考図書			
評価方法	講義中に提示する提出物 100% ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習をして授業に臨みましょう。授業後には復習をしましょう。</li> <li>・授業内に知り得た個人情報の漏洩を禁じます。</li> </ul>		